

令和 6 年度

「いわての復興教育」

実践事例集



令和 7 年 3 月
岩手県教育委員会

I 事業の概要（地域の実情含む）

当学区は、東日本大震災における大きな被害は免れた地域ではあるが、被災した中心街に近い地域であること、長期間に渡り避難所としての役割を果たしたことなど、震災との関わりが深い地域である。

現在、本校に在籍している児童は、東日本大震災後に生まれており、震災当時の状況や復興の歩みについて、テレビ等から情報を得たり、家庭や学校で話を聞いたり教わったりすることで多少の知識はある。しかし、具体的な事柄を学んだり、震災当時の人々の思いについて考えたりすることが十分であるとは言い難い。

また、宮古市ハザードマップ改訂版において、本校校庭付近及び学区の一部が、新たな浸水想定区域に指定され、東日本大震災の実際や防災の工夫、自分の命を守るための学習を積み重ねていくことの必要性がさらに高まっている。

II 取組の概要

1 ねらい

- (1) 実際に被災した地域を見学することを通して、宮古の震災・復興について深く学習するとともに、これからの自分の生き方について考える。
- (2) 三陸沿岸地域の震災・復興についての学習を通して、これからのまちづくりの一員であることを自覚し、自然災害に対する理解を深め、防災に対する心構えを高める。

2 学習の内容

(1) 事前学習

ア オリエンテーション

「海」と聞いてイメージすることについて話し合い、海には楽しさを味わわせてくれたり、水産業を成り立たせてくれたり、私たちに恵みをもたらしてくれる反面、津波という災害を引き起こす怖さもある、というイメージを共有した。東日本大震災についても同様に、どのようなことを知っているか、聞いたことがあるかを全体で共有し、震災に対する理解の状況を把握した。その後、学習のねらいや学習計画について共有し、個々の学習課題を考えた。

イ 東日本大震災の被害の概要について知る

これから学んでいくことが、実際に自分たちが住んでいるこの地で起きたことであることを確認するために、宮古市の津波到達時の動画を見た。動画を見て、津波の威力の大きさ、被害の様子を実感することができた。宮古市の被害の状況を映像資料やデータ等を使って説明し、自分たちが住む宮古市でも甚大な被害があったことを知った。特に映像資料では、児童が知っている街並みの映像もあり、身近なところでの被害も知ることができた。

その後、「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を活用し、東日本大震災の概要(発生時刻やマグニチュード、人的・物的被害など)について学んだ。

《児童の振り返り》

- 東日本大震災の実際の映像を見たことがほとんどなかったので、津波がどんなに怖いものなのか知らなかったけれど、今日の映像を見て、自分の今までの津波の大きさのイメージをはるかに上回っていてしょげきを受けた。津波が来ているのを見ていた人は、自分の大切なものがすぐに流されていってしまうのを見て、とてもつらかったのではないかと思います。
- 見ていて本当につらかった。こんなことが宮古市や宮城、福島に起きたとは思いませんでした。本当に悪夢を見ているような映像の中で逃げている映像を見て心が苦しかったです。そして僕は思いました。この動画を残してくれた人に本当にありがとうと伝えたいです。見ていてつらかったけどちゃんとあった事が本当に分かりました。

ウ 見学先について理解する

(校外学習事前学習)

震災学習列車に乗り、田老地区の「田老防潮堤」と「津波記念碑」、「たろう観光ホテル」などを見学する計画を立てた。これまでの震災についての学習も踏まえた上で、東日本大震災で

どのような被害を受け、そのときどのような思いでいたのか、どのようにして復興を遂げてきたのかを、見学で学んでくることを児童と確認した。

(2) 震災学習列車

ア 三陸鉄道職員による説明

台風5号の影響で、三陸鉄道の利用ではなく、全てバスでの移動・学習となったが、当日は天候に恵まれ、計画通り学習活動を行うことができた。

三陸鉄道の職員の方からは、震災当時の様子について説明していただいた。街の被害や三陸鉄道運行までの人々の努力について知る中で、地震や津波による被害の深刻さとともに、復興を目指してきた人々の力強さについても学ぶことができた。



イ 田老「学ぶ防災」

ガイドの方から、田老地区の防災の工夫や田老の復興状況についての説明を聞いた。ガイドの方からは「津波の時は、高台に逃げる事」「自分の命は自分で守ること」ということを津波の教訓として学んだ。

また、津波映像の視聴を通して、児童は、津波の威力や怖さを体感し、震災の恐ろしさと命の大切さについて再認識することができた。

さらに、新設された防潮堤や三王岩、震災遺構のたろう観光ホテル等を見学し、児童は震災被害を実際のものとして捉えるとともに、防災の大切さについても改めて考えることができた。



(3) 事後学習

ア 震災学習列車・田老「学ぶ防災」の振り返り

見学を通して分かったことや感じたこと・考えたことをワークシートに記入した。児童からは、震災の悲惨さや津波の怖さを改めて感じるだけでなく、海の美しさや穏やかさについて感じ取る振り返りが見られた。見学した場所で実際に起きたことを想像し、当時の人々の思いを考えていたことがうかがわれた。また、自分たちの身近にある海とどう向き合って生きていけばよいかを考えることにもつながった。

《児童の振り返り》

○ 田老での東日本大震災の映像は考えられないくらい高い津波が来ていて、宮古からこんな近いところでもあんなに大きい津波が来ていてビックリしました。

山王岩の海では、こんなにきれいな海が「本当に田老の街を変えてしまったのか？」と考えました。僕たちが遊んでいる海が一瞬にして街を飲み込んだのかと改めて実感しました。

○ ビデオを見て感じたことは、数秒前まで何もなかったのに、一瞬で津波が来ていた。記念碑などを見て、「津波が去るまで1時間」と書いていてその通りだと思った。今日の震災学習で大事だと思ったことはとにかく早く高台に逃げることだ。

○ 今日の震災学習列車を通して、津波や三鉄、被害についての理解を深めることができた。ビデオを見て津波の怖さが改めて分かった気がした。防潮堤の構造の工夫も知れた。三鉄の復興の話を聞いたとき、三鉄が本当に愛されているのだなと思った。田老の海を見て「当時本当に津波が起きたのかな？」と思うくらいきれいでした。津波が来た時には迷わず逃げたい。

○ 今日、田老の海を見てこれが一瞬で大きな津波になったのだなと思いました。たろう観光ホテルでは、実際の津波が押し寄せる瞬間が残っていて、それを見せてもらいました。記念碑には人々が少しでも津波で生き残れるためのことがありました。やっぱり海には楽しいところもあれば、恐ろしいところもあるのだなと思いました。

イ 学習発表会での発表

東日本大震災について学び、自分たちに今何ができるのかを考えた児童たちは、それを学習発表会で保護者や地域の方々に伝えることにした。

自分たちが生まれる前の出来事を表現するということで難しい場面もあったが、台本の一部は児童が考えたり、ワークシートに記入した自身の考えや思いをそのまませりふにしたりするなど、児

童の考えや思いが直接伝わるようにした。

自らが学んできたことを、未来に向けて前向きな内容で発表することができた。



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

復興の様子を実際に見たり、震災を知る方々から話を聞いたりすることは、児童がこれからの生き方を考える上で、価値のある体験学習となった。

三陸鉄道の方の説明や田老「学ぶ防災」学習から津波の恐ろしさを改めて実感するとともに、命の大切さや、当たり前の生活の有り難さを感じる事ができた。

2 課題

事前や事後での学習で、震災を自分事として考え、自らの生き方を見つめていくための手立てや指導が必要である。

今後も様々な場面で、体験したことや学んだことを想起させながら、震災のことをこれからの自分事として考え、防災意識を高めたり、一人一人が、これからのまちづくりの一員であることを自覚させたりする必要がある。